

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (経済学) Ph.D. in Economics	氏名 (Candidate Name)	CLARISSE MENDOZA GONZALVO
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) Farmer Decision-Making on the Concept of Coexistence: A Comparative Analysis Between Organic and Biotech Farmers in the Philippines			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主査	教授	Maharjan, Keshav Lall	
審査委員	教授	市橋 勝	
審査委員	教授	後藤 大策	
審査委員	准教授	後藤 拓也	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、フィリピンの小農における安全で安心できる食料生産のニーズの背景にバイオテクノロジー農業と有機農業の推進において両者が相反するものではなく双方の長所を捉え、共存の概念について農家の意思決定においてconsumer decision modelを使って分析を行っている。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、本研究の背景、目的、重要性、先見性、文献レビュー、理論的概念及び分析の枠組みが提示されている。</p> <p>第2章では、研究デザイン、分析モデル及びツール、調査地域の選定、調査方法、研究倫理への対応、データ収集・整理、解析等について具体的に述べられている。</p> <p>第3章では、分析結果の一部である内容を Farmer Decision-Making on the Concept of Coexistence として、バイオテクノロジー農業と有機農業の共存の概念における農家の意思決定についてまとめられている。</p> <p>第4章では、分析結果の一部である内容を Farmer decision-making on the Ban on Biotech Crops として、バイオテクノロジー農業を禁じる最高裁の一時的判決の分析及びそれに対する両農家の受け止め方についてまとめられている。</p> <p>第5章では、本論文を要約し結論を述べながら本研究の学術的、政策的意義及び残された課題について言及されている。</p> <p>本論文は、次の点で高く評価できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオテクノロジー農業は生産の安定化及び増産が図れるので農家の満足度が高く、それが継続され、そして有機農業との共存が環境への負荷の軽減になると理解されたこと。 2. バイオテクノロジー作物が有機農法によって生産されることによって小農の収入の増加、安全な食品の安定的供給、環境負荷の軽減が可能な持続的農業の推進が可能になることが示されたこと。 3. そのような農家はバイオテクノロジー農業を禁じる最高裁の一時的判決も間違いだとしていることが判明されたこと。 <p>これらの研究結果は、地域課題に新たな解決策を提案し、先見性、創造性に優れ、かつ社会的貢献をなすものである。試験においても、本論文の著者は審査委員からの質問及び一般参加者から出されたその他の学術的質問に対して適切に応答し、国際経済開発プログラムの教育の効果が見られた。また、SCI 学術誌への論文掲載(3 報)及び国際学会での発表(2 件)は、本プログラムの修了要件を十分満たしている。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士(経済学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p> <p style="text-align: right;">令和5年2月7日</p>			

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)